

令和7年度新収蔵美術品について

令和7年度は、美術品の購入と受贈により52点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展などで活用してまいります。

1. 美術品の購入（4点）

No.	作家名	生没年	作品名
1	かざま 風間 サチコ	1972-	ツァウバーベルク
2	とみい もとひろ 富井 大裕	1973-	ゴールドフィンガー
3	〃	〃	今日の彫刻（110908-160908）
4	ふじい ひかる 藤井 光	1980-	日本の戦争美術 1946

上記作品は、富山県内在住の個人の方からのご寄附を活用し購入しました。寄附者のご意向を踏まえて、日本の若手・中堅作家（30代～50代）の作品を購入したものです。

2. 美術品の受贈（8件、48点）

No.	作家名	生没年	作品名	寄附者
1 ～ 6	あさおか けいこ 浅岡 慶子 しろおひゅう （代尾飛 含む）	1945-	Panel number 0011 ほか	あさおか けいこ 浅岡 慶子氏
7 ～ 11	おかざき かずお 岡崎 和郎	1930-2022	HISASHI ほか	おかざき あつこ 岡崎 厚子氏
12 ～ 31	かなもり よしお 金守 世士夫	1922-2016	版絵菩薩曼荼羅 ほか	かなもり よしこ 金守 嘉子氏
32	ごとう けんそ 五島 健三	1886-1946	大井冷光肖像画	おおい よしひろ 大井 義博氏
33	サム・フランシス	1923-1994	無題	おやま けいこ 尾山 景子氏
34	ずかわ まさし 頭川 政始	1933-1993	誕生の詩・（夕縞）	かわべ かずひこ 川邊 一彦氏
35 ～ 39	ひさいずみ きょうぞう 久泉 共三 ひさいずみ 久泉 すま	1899-1993 1903-2001	[題不詳] ほか	ひさいずみ つる お 久泉 鶴雄氏
40 ～ 48	かぶらぎ まさや 鏑木 昌弥、 ほか5名	1938-	迷路 ほか	アートギャラリー かん かわつま 一環 川妻 さ ち子氏

※各作品の詳細は、別紙のとおり

(別紙)

(1) 美術品の購入

No.	作家名	作品名	制作年	技法	サイズ (cm)	参考図版
1	風間サチコ	ツァウバーベルク	2021年	木版画 (パネル、和紙・油性インク)	183×364	
2	富井大裕	ゴールドフィンガー	2026年	画鋏 (11880本)、指示書 ※彫刻	99×145.2×0.1cm または1210×118.8×0.1cm または145.2×99×0.1cm	
3	富井大裕	今日の彫刻 (110908-160908)	2011年	スライド画像・モニター	スライド:1612枚 (26:52)、モニター:9.8×12×4	
4	藤井光	日本の戦争美術 1946	2022年	ビデオ・インスタレーション	映像、音声	

1. 風間サチコ

作家は、近年高い評価を受けており、ニューヨーク近代美術館はじめ国内外で作品が収蔵されている。取得作品は、生と死をテーマにしたトーマス・マンの小説『魔の山』(独題:ツァウバーベルク)から主題を得ており、作品上部には山岳写真を、下部には湖面に写されたような鏡像が表されている。コロナ禍を背景に時代への批評性を持つ作品として高く評価できる。また、大型作品でもあり、版画作品だが1点ものである点でも希少性が高い。

2. 富井大裕

作家は、クリップや鉛筆、ハンマーなど日常的な既製品を用いて、それらを並べる、重ねる、束ねるといった単純な操作により、新たな彫刻の様態を探求し注目されてきた。取得作品《ゴールドフィンガー》は、作家の代表作で東京国立近代美術館ほかにも既に収蔵されている。《今日の彫刻(110908-160908)》は、日常風景の中に作者が見つけた「彫刻」的なものを集めたスライドを集成したもので、2点合わせ展示することで作家の世界観をよく示すもの。

3. 藤井 光

作家は綿密なりサーチによる社会的な映像インスタレーション作品で高く評価され、東京国立近代美術館をはじめ国内外の多数の美術館に作品が収蔵されている。

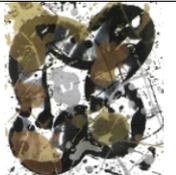
取得作品は、戦後米国に接收され、後に永久貸与という形で返還されて東京国立近代美術館に収蔵されている日本の戦争画をテーマとする。戦後80年を期に各地の公立美術館が同シリーズの作品を、各館のコレクションに合わせて収蔵、当館でも展示活用を行う。

(2) 美術品の受贈

No.	作家名	作品名	制作年	技法	サイズ (cm)	参考図版
1	代尾飛 (浅岡慶子)	Panel number 0011	1970年	ガラス・キャン パス地・パネル	45.0×45.0	
2	代尾飛 (浅岡 慶子)	赤い線	1970年	紙、パラフィン、 顔料	45.0×45.0	
3	浅岡慶子	珠 Thinking of ALAYA	1992年	紙、水彩	26.0×16.0	
4	浅岡慶子	珠	2005年	紙、ミクストメ ディア	27.0×20.0	
5	浅岡慶子	珠	2005年	紙、ミクストメ ディア	30.0×22.0	
6	浅岡慶子	[瀧口修造、綾子肖像]	2006年	紙、鉛筆	57.0×42.0	
7	岡崎和郎	HISASHI	1983年	ブロンズ	H3.8×W64.0× D12.5	
8	岡崎和郎	HISASHI	2002年	アクリル樹脂・ 彩色、金属	大：H4.5×W59.6 ×D 10.0、 小：H3.0×W30.0 ×D5.0 (2点1組)	
9	岡崎和郎	(無題)	2015年	造花、ガラス、 石膏	H36.5×W10 ×D12	
10	岡崎和郎	画中画	2004年	石膏、彩色	H27.5×W22.3× D2.2	

11	岡崎和郎	画中画	2021年	キャンパス・絵 葉書、ペン	H16.2×W22.8× D3.5 (2点1組)	
12	金守世士夫	版絵菩薩曼荼羅	1947年	木版画	16.0×144.0	
13	金守世士夫	物語 エリコの街探る二 兵士	C. 1952年	木版画	56.4×74.2	
14	金守世士夫	サタン転落	1958年	木版画	37.4×52.8	
15	金守世士夫	逃れの街／神話逃れの街 の章	1958年	木版画	50.7×68.8	
16	金守世士夫	ノアの方舟	1959年	木版画	49.0×65.0	
17	金守世士夫	鳥いる湖山	1965年	木版画	72.0×57.3	
18	金守世士夫	湖山<時天使>	C1976年	木版画	99.0×69.5	
19	金守世士夫	湖山<風車・蝶>、湖山 (蝶・幻華)	1978年	木版画	98.8×69.0	
20	金守世士夫	湖山<陽炎・紅玄鳥>	1984年	木版画	72.2×57.4	
21	金守世士夫	葦草の捨児	制作年不詳	木版画	40.5×57.4	

22	金守世士夫	サタン転落	制作年不詳	木版画	54.8×69.6	
23	金守世士夫	燃える芝	制作年不詳	木版画	53.5×69.5	
24	金守世士夫	[出エジプト]	制作年不詳	木版画	40.4×50.1	
25	金守世士夫	題不詳	制作年不詳	木版画	30.3×45.5	
26	金守世士夫	羽根とぶ湖山 No. 2	制作年不詳	木版画	69.5×48.8	
27	金守世士夫	題不詳	制作年不詳	木版画	72.8×57.0	
28	金守世士夫	空蝶の湖山<青>	制作年不詳	木版画	68.3×49.2	
29	金守世士夫	舞蝶 (A)	制作年不詳	木版画	61.5×49.7	
30	金守世士夫	湖山<羽月>青	制作年不詳	木版画	69.5×49.2	
31	金守世士夫	湖山<華・蝶>	制作年不詳	木版画	102.9×69.0	
32	五島健三	大井冷光肖像画	1912	キャンバス・油 絵具	45.2×33.5	

33	サム・フランシス	無題	1985	銅版画	22.5×19.1	
34	頭川政始	誕生の詩・(夕縞)	1976	紙・鉛筆	13.8×14.5	
35	久泉共三	[題不詳]	制作年不詳	キャンバス・油絵具	62.8×70.3	
36	久泉共三	溪(未完成)	1990年	キャンバス・油絵具	57.7×48.4	
37	久泉共三	黒部峡谷	制作年不詳	キャンバス・油絵具	57.7×48.4	
38	久泉すま	リンゴとブドウと中口の緑の壺	制作年不詳	油彩、キャンバス	45.4×53.0	
39	久泉すま	花	1931年	油彩、キャンバス	43.6×43.7	
40	鎭木昌弥	迷路	1977	キャンバス・油絵具	27.4×40.8	
41	鎭木昌弥	あのセトモノはどこ	1978	キャンバス・油絵具	65.2×50.0	
42	藤山ハン	人形の肖像	1965	キャンバス・油絵具	53.0×45.5	
43	藤山ハン	人形の肖像	1967	キャンバス・油絵具	53.0×41.0	

44	藤山ハン	霊的オブジェのある風景	1968	キャンバス・油 絵具	31.8×41.0	
45	高山良策	東宝争議・青婦人会議	1947	キャンバス・油 絵具	40.9×53.0	
46	中村宏	望遠鏡列車	1974	紙・リトグラフ	37.4×46.5	
47	尾藤豊	館と女人シリーズ	1981	紙・インク、透 明水彩絵具	27.2×41.5	
48	桂川寛	水の中の風景	1966	キャンバス・油 絵具	45.5×33.3	

1. 浅岡慶子（アーティストネーム・代尾飛）（1945－）

宮崎県生まれ。武蔵野美術大学で油絵を学び、美術出版社に一時勤務しつつ作品を制作。1971年ピナール画廊（東京）で個展を開催後、1972年に渡米しニューヨーク大学で美術史などを専攻、作品を制作する。1983年に帰国後は個展を中心に作品を発表。1970年代以降、コンセプチュアルな作品を制作し続けている芸術家である。

瀧口修造との縁も深く、当館では瀧口の旧蔵品「瀧口コレクション」として初期の2作品を既に所蔵している。今回作家より寄附申出のあった作品は、その後、現在に至るまでの作家の活動を辿ることが出来るもので、「瀧口コレクション」と合わせた展示のほか、戦後美術の中の女性芸術家の表現としても展示活用が期待できる。

2. 岡崎和郎（1930－2022）

岡山県生まれ。早稲田大学在学中に瀧口修造やダダやシュルレアリスムに触れ、鉄の彫刻の制作を始める。読売アンデパンダン展や、瀧口修造の紹介で東京画廊で個展を開催したのを皮切りに展覧会多数。

岡崎和郎はオブジェを数多く制作し、戦後の日本美術史の中で独自の着想と方法で評価を確立した作家。瀧口との縁も深く、当館では既に作品21点（うち瀧口の旧蔵品「瀧口コレクション」20点）を所蔵するが、今回ご遺族から寄附申出のあった作品は、いずれも作家の代表的なシリーズであり、当館の作品と合わせ作家の長い作歴を概観することが期待できる。

3. 金守世士夫（1922－2016）

富山県射水郡伏木町（現・高岡市）生まれで、富山県を代表する木版画家。戦中戦後の一時期、本県に疎開していた棟方志功の薫陶を受けたことで知られる。国画会等で活躍。刀根山光人、深澤幸雄らと版画芸術院を創立した。富山県文化功労章受章。

当館ではこれまで収蔵する機会がなく、今回、作家ご遺族の申出により、作家の生涯にわたる代表作を厳選し受け入れる。

4. 五島健三（1886－1946）

富山県福野町（現・南砺市）生まれ。富山県立農学校（現・富山県立南砺福野高等学校）を卒業後、上京し、1907年に東京美術学校に入学。岡田三郎助に師事。第1回文展（県下初）、白馬会展に入選。鹿児島師範学校（現・鹿児島大学）に赴任し長く教鞭をとった。

五島健三は、本県の近代の洋画史上、重要な作家。本作は、五島の親友で童話作家の大井冷光（富山県出身）の肖像画であり、二人の交友を語る上でも貴重。大井冷光ご遺族からの申出による寄附で、本県の近代洋画史を振り返る展覧会などでの活用が期待される。

5. サム・フランシス（1923－1994）

アメリカ、カリフォルニア州生まれ、同地で没。戦後フランスのアンフォルメル（不定形絵画）とアメリカの抽象表現主義の二つの抽象絵画の流れを汲みつつ独自の作風を確立し、ニューヨーク近代美術館ほか世界の主要美術館に作品が収蔵されている。

戦後、1950年代に来日し、瀧口修造や東野芳明ほかと親しく交遊。富山県立近代美術館に1986年に来館し、同館で2度（1988年、2002年）個展を開催した。

寄贈者は、富山県における瀧口修造研究会の主催者。本作は、旧近代美術館でのサム・フランシス展（1988年）開催時に入手されたもの。当館の既収蔵のサム・フランシス作品とともに活用が期待される。

6. 頭川政始（1933－1993）

富山県高岡市生まれ、同地で没。高岡市塗装指導所普通科修了、金沢美術工芸大学デザイン科卒業。頭川は、戦後富山の前衛的な表現における代表的作家のひとりで、鉛筆による細密表現により独自の幻想的な世界を展開した。本作は頭川と交流のあった、本県の洋画家・川辺外治（1901 - 1983）の旧蔵品で、川辺ご遺族より寄附の申出があった。当館では頭川作品をすでにまとまった数所蔵しているが、戦後の富山の作家間の交流を示す作品として活用が期待できる。

7. 久泉共三（1899－1993）、久泉すま（安藤すま／1903－2001）

久泉共三は、高岡市出身で洋画家・中川一政に師事し春陽会で活躍。帰郷後は「富山県洋画協会」「富山県美術文化協会」などの結成に関わり、本県の洋画運動を牽引した。

久泉すま（旧姓・安藤）は、洋画家・山本鼎に師事し春陽会に参加、2度入選を果たすも、結婚後は共三の画業を支えた。当館では二作家ともまだ収蔵がなく、今回ご遺族からの寄附申出を受け、本県の洋画史を辿る上で貴重な作品を取得した。

8. 鐫木昌弥他、5名

寄附者の川妻さち子氏は、昭和50年代初頭より東京で画廊「アートギャラリー一環」を主宰し、長年にわたり日本の戦後の前衛美術を多く扱い自身もコレクションしてきた。近年、高齢のためそのコレクションを順次美術館に寄附しており、練馬区立美術館や福島県立美術館、茨城県近代美術館など国内の主要美術館で収蔵されている。

今回、鐫木昌弥や藤山ハン、高山良策ら6人の作家の絵画及び版画9点の作品を受贈する

もの。批評等を通じ前衛美術を支援した瀧口修造との縁もあり、展示活用が期待できる。

・ 瀧木昌弥（1938－）

東京都生まれ。多摩美術大学を卒業後、「前衛美術展」、のちに「齧展」を中心に作品を発表。NHKの人形劇のセットや演劇公演の美術デザインなども手掛けた。

・ 藤山ハン（1941－）

鹿児島県生まれ。独学で絵を学び、特定の美術運動や表現に属することなく独自の画境を開拓してきた。鹿児島市立美術館や平塚市美術館などで作品が収蔵されており、当館でも瀧口修造コレクションとして2点収蔵しているが、代表的な〈人形シリーズ〉はなく、今回受贈するもの。

・ 高山良策（1917－1982）

山梨県生まれ。上京し独学で絵を学ぶ。戦後、山下菊二らと前衛美術会を結成。同会や日本アンデパンダン展、齧展などを中心に作品を発表した。本作は戦後のルポルタージュ絵画の重要作である。尚、1965年以降、画業と並行し円谷プロでウルトラマンなどの怪獣制作の仕事に携わったことでも知られる。

以上